



軽井沢風越学園

2025年5月23日(金)

『能登』フィールドワークを実施するためのご寄付のおねがい



1. 軽井沢風越学園について	2
2. 7・8年テーマプロジェクト『能登』について	3
テーマプロジェクトとは	3
『能登』をテーマに「1年間」続けるダイナミックな学びを	3
「テーマ設計者の思い」: 大きな社会の小さなつくり手	3
テーマプロジェクト『能登』のグランドデザインとフィールドワーク	4
3. 寄付の経緯とおねがい	5
4. 『能登』フィールドワークに関する必要経費と予算の状況	6
能登フィールドワークについて	6
能登フィールドワークへの支援団体	7
能登フィールドワークにかかる学校としての経費	7
風越学園の予算の状況	8
5. ご寄付の手続き	8
6. ご寄付の返礼	10

<概要>

軽井沢風越学園(以下、風越学園)では一つのテーマを探究する「テーマプロジェクト」が、探究の学びの核にあります。今年度は「能登」をテーマに1年間を通したテーマプロジェクトを実践します。第1タームは「能登の人と出会う」とし、能登のフィールドワークを通して、能登の人と実際に出会い、インタビューを行います。

しかし現在、風越学園として設定した予算ではフィールドワークに行くための費用が約130万円ほど足りていません。6月23日～25日に実施するフィールドワークが本プロジェクトの核であるため、短期間ではありますが、みなさまからご寄付をお願いします。

目標金額: 130万円

募集期間: 2025年5月23日(金)～2025年5月31日(土)

寄付方法: 風越学園の寄付ページ「薪くらぶ」



1. 軽井沢風越学園について

2020年4月、長野県軽井沢の地に3歳から15歳までが一つの校舎で学ぶ「軽井沢風越学園(かるいざわかざこしがくえん)」が誕生しました。

風越学園の「大切にしたいこと」の一つに、「子どもも大人も、つくり手である」という言葉があります。風越学園では子どもや大人が、日々「つくる」経験を、じっくり、ゆったり、たっぷり、まざって積み重ねています。

ここでいう「つくる」は物理的なものや学習の成果物だけにとどまりません。安全・安心な場を自分たちでつくる、学びをつくる、自分たちの学校をつくる、コミュニティをつくる、仕組みをつくる、ルールをつくる、自分をつくる。つまり、「わたし(たち)の未来をわたし(たち)でつくる」冒険をしています。

「つくる」ことを通じて、「自由に生きる」ということと「自由を相互に承認する」ということを繰り返し試すことを通して、1人ひとりが幸せになり、幸せな社会をつくっていきます。

※風越学園について詳細を知りたい方は公式ホームページをご覧ください。

<https://kazakoshi.ed.jp/>

2. 7・8年テーマプロジェクト『能登』について

テーマプロジェクトとは

小学3年生から8年生(中学2年生)は、ラーニンググループ(年齢の近い2学年合同の集団)で一つのテーマを探究する「テーマプロジェクト」が、探究の学びの核にあります。子どもたちは、スタッフから提案されたテーマについて問いを立て、仲間と協同して探究します。

風越学園では、テーマプロジェクトで様々なテーマにふれ、その中で自分の関心に重ねて探究に向かう学びを実践します。「やってみたい、知りたい、解明したい」などの情熱とつながって探究することで、子どもたちは対象に向き合い、教科の枠組みを越えて学んでいきます。

『能登』をテーマに「1年間」続けるダイナミックな学びを

6年目を迎える風越学園のテーマプロジェクトの設計において、今までは1年間で4つのタームに分け、最大2ヶ月という短いスパンの活動を行ってきました。しかし、中学生にとって、教科横断的な学びを深めるには2ヶ月では時間が足りないと感じてきました。もっとテーマを深めたい。一人ひとりにとって自分ごととなる学びにしたい。そこで、2025年度のチャレンジとして、今年度の7・8年生(51名)のテーマプロジェクトでは「1年間」を通したテーマを設定しました。「1年間」を通しての学びを教科の学びだけに留めず、子どもたちが「社会のつくり手」として育ち、学びを加速させる実践を計画しています。

「1年間」を続けて学びを深めるために、年間を通したテーマを「能登」にしました。子どもたちの能登へのかかわり方をテーマプロジェクトの進行や学びの状況によって変えながら、子どもたちの問いや関心を生かし、より広く、より深く、ダイナミックな学びを目指します。

「テーマ設計者の思い」: 大きな社会の小さなつくり手

本テーマプロジェクト設計者の一人である風越スタッフの新井佑香は、2024年1月1日の能登半島地震以降、珠洲市飯田高校での炊き出しや奥能登豪雨の被害を受けた家での泥かき出し、輪島市黒島地区での海岸清掃など、数回に渡って現地のボランティアに参加しました。1年間、能登を定期的に訪れる中で、能登で暮らす人々のやさしさとしなやかさ、穏やかな海と荒れ狂う海など色々な表情を見せる能登の自然環境、年中行事や祭りを大事にする神仏と共にある暮らしなどに魅力を感じ、能登という場所に自分の身体が引き込まれていく感覚を覚えました。

能登と繋がるいま、きっかけはあくまでも震災ボランティアでしたが、震災や豪雨被害がなくても、「確かにそこにある能登」に目を向けてみたい。能登に目を向けることで、自分自身の暮らしを見つめたり、「なぜ？」という問いが浮かんだり、自分と距離のあった社会課題がぐっと近づいたり、多くの学びが生まれるはずだと思ったのは能登に通い続けて1年経った頃のことです。「テーマプロジェクトのテーマにしたい」と確信したのです。



今年度の7・8年生のテーマを「能登」と設定してから、様々な人と繋がらせていただいたり、能登に関するニュースや文献に触れたりする中で、能登半島地震や奥能登豪雨による被害を通してあらわになった課題は、能登だけに留まらず、これから日本各地で向き合わなくてはならない社会課題と地続きであることを知りました。能登で起こっていることを考えることは、これから様々な地域で起こり得ることを見つめることにもなると感じたのです。

また能登は、自然を生かした暮らし、地域住民の関係性で成り立つ暮らし、神仏と共にある暮らしが今なお多く残り、今の社会で見えづらくなっている「誰か」を感じることができる地域です。自然や人とつながり、影響し合いながら生きていることを思い出させてくれます。

本テーマプロジェクトのスタートを切ったばかりの子どもたちにとって、能登で震災後に見えてきた課題も、自然や人とつながりながら生きる暮らしのあり方も、自分たちとは距離のある「大きな社会」です。しかし、震災や豪雨災害を経て、力強いメッセージを私たちに届けてくれている能登という地域と出会い、そこで暮らす人々となつたり、共に考え歩むというリアルな学びを通して、「大きな社会」がグッと近づいてくるはずです。

その近づいてきた社会と、自分がつくったこと・できること・起こしたことがどんな風に結びついているのか、つながっているのかを子どもたちに実感してほしい。「大きな社会」は意外と近くにある、多くの「小さなつくり手」が動かしていけるものだという感覚をもってほしい。その感覚はいつか必ず、子どもたちの手が伸ばせる範囲の社会をつくっていくことに繋がっていくと信じ、今年度のテーマプロジェクトのテーマを「能登」としました。

テーマプロジェクト『能登』のグランドデザインとフィールドワーク

1年間を大きく4つのタームに分けて、子どもたちは様々な切り口で「能登」を探究していきます。5～7月は「能登の人と出会う」、8～10月は「能登とつくる」、11～12月は「能登からひろげる」、1月以降は「ひろげた世界を他者に伝える」です。

	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
願い 子どもたちと大切にしたいこと	〈願い〉 「人と自然、人と人をつなぐ社会のつくり手である」という実感がもてる 〈 子どもたちと大切にしたいこと 〉 つくってみる経験を積み重ねる つくってみたことをいくつかの視点で振り返る			
材と子どもたち	能登の人と出会う	能登とつくる	能登からひろげる	ひろげた世界を他者に伝える

このように能登へのアプローチを変えながら、1年を通じて「人と自然、人と人をつなぐ『社会のつくり手』になる」ことを願っています。また、「つくってみる経験を積み重ねる」とことと、「つくってみたことをいくつかの視点で振り返る」ことを子どもたちと大切にします。子どもたちの学びのアウトプットは何かしらの方法で学園を超えて、広く社会に対して共有します。

すでにスタートを切っている第1タームは「能登の人と出会う」とし、「能登の中にある人と自然、人と人のつながりを能登の人とみてみよう」というゴールを子どもたちと共有しています。自分の関心ごとと能登の重なりを見つけ、現地でのフィールドワークで能登の人と出会い、インタビューを行います。本やインターネットだけでは得られない情報や能登の人の生き様に触れることで、51名の子どもたちが、自分の身体全体で捉えた能登を持ち寄り、探究し学んでいきます。

3. 寄付の経緯とおねがい

今回の学びの核となるフィールドワークは6月23日(月)～25日(水)に実施する計画としています。年間を通したテーマ設計において、このタイミングで能登の人々と直接出会い、自分の身体全体で捉える学びは、子どもたちが社会を自分事として捉え、「小さなつくり手」となることに不可欠です。

ただし、現地での活動と交通費や宿泊費を含め、約130万円の費用の不足が見込まれています(詳細な予算と行程については次項参照)。これらの費用について、フィールドワーク実施前に経費を確実に集め切る必要があります。昨年度作成した年度予算で見込んでいたテーマプロジェクト費や、そのほか学園内で利用可能な予算を全て検討し、調整を行いましたが、現時点で必要金額に達していません。

6月末のフィールドワークを実現させ、子どもたちの学びを豊かに、より深めていくために、大変期間が短く、急なお願いとなりますが、ご支援のご協力をお願い申し上げます。

目標金額:130万円
募集期間:2025年5月23日(金)～2025年5月31日(土)
寄付方法:風越学園の寄付ページ「薪くらぶ」

4. 『能登』フィールドワークに関する必要経費と予算の状況

能登フィールドワークについて

テーマプロジェクト「能登」において、子どもたちの学びを深める上で核となる能登でのフィールドワークを、第1タームの活動として計画しています。実際に能登の地に足を運び、現地の人々と出会い、インタビュー等を通じて得る一次情報や能登で暮らす人々の生きた物語に触れる経験は、本やインターネットだけでは決して得られない、子どもたちの身体全体で能登を捉える貴重な機会です。この直接的な出会いが、「人と自然、人と人をつなぐ社会のつくり手になるとはどういうことか」を7・8年生の子どもたちと考え続ける1年間の探究活動の、重要な学びの核となると信じています。

<現地 日程スケジュール>

日時	行程
<u>25/06/23</u> 08:30- 08:59 -12:27 16:30	集合@軽井沢駅 移動(新幹線)【発】軽井沢駅―【着】金沢駅 移動(在来線)【発】金沢駅 ―【着】羽咋駅 移動(徒歩)+昼食 [現地フィールドワーク] 滝港海岸、能登國一宮 氣多大社 チェックイン@能登青少年自然の家
<u>25/06/24</u> 09:00 17:00	チェックアウト@能登青少年自然の家 [現地フィールドワーク] A: 能登町、祭りや太鼓、漁業に携わる人々との交流 B: 輪島市黒島、被災者を支援する人々との交流 C: 輪島市街、伝統工芸を支える職人の人々との交流 D: 輪島市街、同世代の中学生と彼らを支える人々との交流 E: 珠洲市狼煙周辺、能登の里山里海とそこに暮らす人々との交流 チェックイン@グループ毎に宿泊
<u>25/06/25</u> 08:00 13:30 13:58-15:55 16:00	チェックアウト@グループ毎に宿泊 [現地フィールドワーク] A: 能登町、祭りや太鼓、漁業に携わる人々との交流 B: 輪島市黒島、被災者を支援する人々との交流 C: 輪島市街、伝統工芸を支える職人の人々との交流 D: 輪島市街、同世代の中学生と彼らを支える人々との交流 E: 珠洲市狼煙周辺、能登の里山里海とそこに暮らす人々との交流 グループ毎に集合@金沢駅 移動(新幹線)【発】金沢駅 ―【着】軽井沢駅 解散@軽井沢駅

能登フィールドワークへの支援団体

<支援団体情報>

団体名	代表者氏名	参考URL
一般社団法人NOTOTO.	安江 雪菜 松中 権	https://nototo.jp/
NRN能登復興ネットワーク	木下 徳泰	https://nrn-iyasaka.net/
NPO法人ETIC.	伊藤 順平 高木 俊之 伊藤 いずみ 鹿兒嶋 志乃	https://etic.or.jp/

<支援内容>

- ・町内での活動のサポート
- ・町内での交通費
- ・現地のコーディネーター費用

能登フィールドワークにかかる学校としての経費

以下の費用につきましては学校として負担する必要があります。また、別途食費は家庭より徴収する予定です。

項目	内容	金額		
交通費	軽井沢一金沢一羽咋までの移動	1,025,200		
	<table><tr><td>軽井沢一金沢 ¥9,470 (*団体割引-30%あり) 金沢一羽咋 ¥830 =¥10,300/人 大人6名小計:¥61,800</td><td>軽井沢一金沢 ¥8,370 (*団体割引-50%あり) 金沢一羽咋 ¥830 =¥9,200/人 子ども49名(参加予定) 小計:¥450,800</td></tr></table>		軽井沢一金沢 ¥9,470 (*団体割引-30%あり) 金沢一羽咋 ¥830 =¥10,300/人 大人6名小計:¥61,800	軽井沢一金沢 ¥8,370 (*団体割引-50%あり) 金沢一羽咋 ¥830 =¥9,200/人 子ども49名(参加予定) 小計:¥450,800
	軽井沢一金沢 ¥9,470 (*団体割引-30%あり) 金沢一羽咋 ¥830 =¥10,300/人 大人6名小計:¥61,800		軽井沢一金沢 ¥8,370 (*団体割引-50%あり) 金沢一羽咋 ¥830 =¥9,200/人 子ども49名(参加予定) 小計:¥450,800	
片道:¥512,600 往復:¥1,025,200				
保険代	¥461/人×55人	25,355		
宿泊費	1泊目:国立能登青少年交流の家	50,000		
宿泊費	2泊目:各フィールドワーク先の民宿等	200,000		
合計		1,300,555		

風越学園の予算の状況

風越学園ではご家庭より教材活動費を徴収しており、そのなかから7・8年のテーマプロジェクト費として約40万円を見込んでいます。こちらの費用をフィールドワークにすべて当てることは難しく、フィールドワークについての予算を別途確保する必要があると判断しました。

5. ご寄付の手続き

能登テーマプロジェクトへのご寄付は、風越学園の寄付ページ「薪くらぶ」より、クレジットカードまたは銀行振込にてお手続きいただけます。

1.以下のURLのページにアクセスしてください。

<https://kazakoshi.ed.jp/makiclub/>

2.ページ内の「学校づくりを応援」>「一回の寄付」よりお進みください。

軽井沢風越学園

学園のこと ▶ かぜのひと ▶ お知らせ ▶ 入園入学 ▶ 採用 ▶ ご寄付 ▶ ラーニングセンター ▶ 問い合わせ

HOME > 薪くらぶ

寄付の方法は、下記の2種類からお選びいただけます。

マンスリー応援

毎月
の寄付

月々1,000円から継続してご寄付いただけます。クレジットカードが利用可能です。

> 寄付する

都度応援

一回
の寄付

お好きな時にお好きな額をご寄付いただけます。クレジットカードまたは銀行振込が可能です。

> 寄付する

> 風越学園へのご寄付は、税額控除の対象となります

こちらをクリック

こちらをクリック

3.寄付金額は「1万円」「3万円」「10万円」「任意」からお選びいただけます。

申込内容 ...

決済の頻度 必須

☒ 今回のみ ☐ 毎月

決済方法 必須

☒ クレジットカード /  Pay

☐ 銀行振込

金額 必須

選択してください ▼

10,000円

30,000円

100,000円

その他の金額を入力

次へ

4.応援コメント欄には、以下の文言を必ずご記入ください。

「#能登プロジェクトを応援」

それに加えて、応援のメッセージなども添えていただけたら、大切に読ませていただきます。

※いただいたコメントはプロジェクトページに掲載させていただく場合があります。公開を希望されない方は、「コメントの公開を許可する」のチェックを外してください。

応援コメント

コメント

応援しています！

0 / 255

いただいたコメントはプロジェクトページで公開されます。公開を希望しない場合は「コメントの公開を許可する」のチェックを外してください。

☒ コメントの公開を許可する

「#能登プロジェクトを応援」と記入

なお、現在、学費とあわせてご寄付くださっている保護者の皆さまへ：

今回の「能登テーマプロジェクト」へのご支援として、これまでの分や今後の年度内のご寄付を充てたいという場合は、恐れ入りますが、下記メールアドレスまでその旨をご連絡ください。

【ご連絡先】donation@kazakoshi.jp

6. ご寄付の返礼

寄付して頂いた方全員に

- ・子ども達がフィールドワークで学んでいる様子や自分たちが学んだことをまとめた動画を先行で配信いたします。
- ・風越学園での学習発表会(アウトプットデイ)に招待させていただきます。

「1万円」以上の寄付を頂いた方に

- ・子どもたちが能登の現地で行ったインタビュー調査の成果をまとめた冊子を返礼品として贈呈いたします。